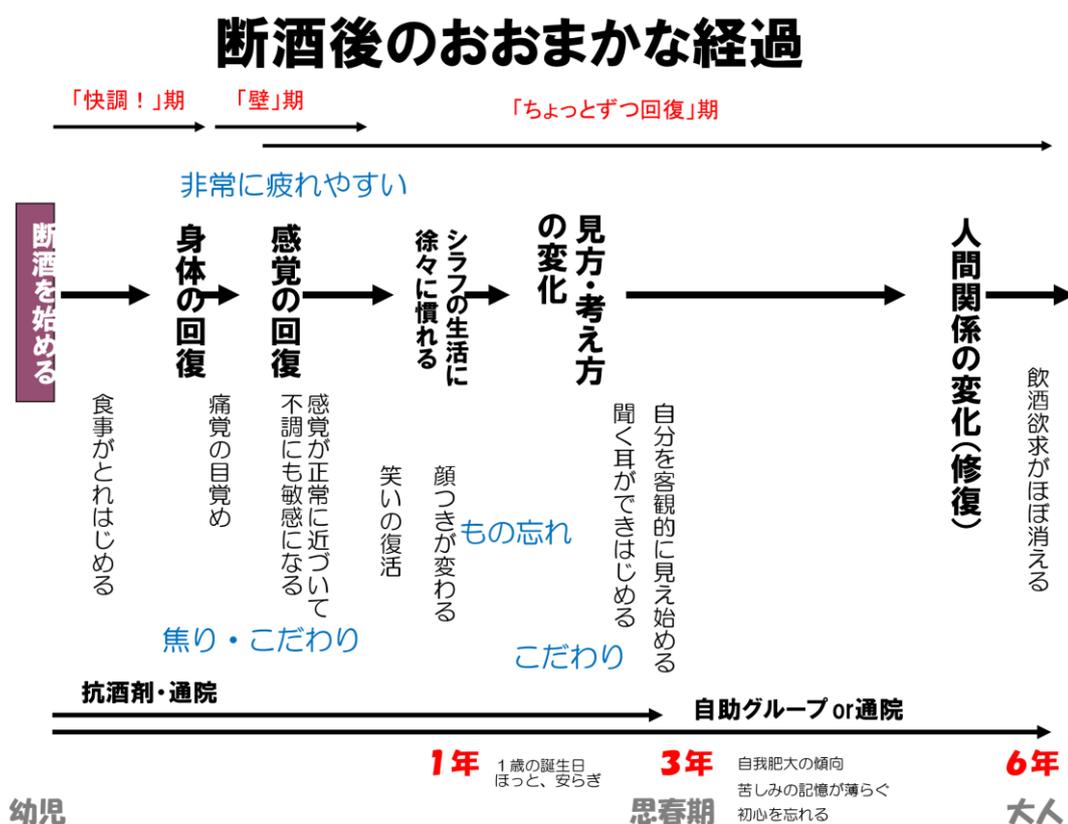


令和4年度第2回依存症治療拠点機関研修「依存症の家族支援について」でお受けしたご質問に対し、吉田先生からご回答いただきました。大変遅くなり申し訳ございませんがご確認ください。

Q1 アルコール以外のことに目を向けられることができるまでにどれくらいかかるものなのでしょうか。知り合いが父親の飲酒で困っていて力になりたいと思っています。

A1 下の図を参考にしてください。



慢性的な飲酒によって興味関心という脳の機能は極度に低下します。なにをしても面白く感じられない脳の機能状態です。これには前頭葉が大きくかかわっていますので、前頭葉の回復次第になります。断酒後の脳の機能回復には順序があって、高度の機能ほど遅れます。前頭葉の回復に最も時間がかかります。数年かかると考えたほうがいいです。この時期に焦ってなにかを始めても続けるために必要な興味関心面白味が伴わないので下手すれば挫折体験になり飲酒に戻ってしまいかねません。個々の理解が重要です。

薄皮をはぐように回復するので、そのことを知って、焦らず、今できそうなことだけするのが一番いい方法です。

Q2 本人が未受診であり、断酒意欲がない場合に家族の休息のために医療保護入院を選択することはありますか？入院を選択したら期間はどの程度設定しますか。それとも待つしかないのでしょうか。

A2 医療保護入院の要件に「家族の休息のため」はありません。いくら病気であっても自由を奪って拘束する制度ですので、法的要件を満たさないと危険です。連続飲酒状態と酩酊状態での暴力に関しては患者の生命と家族の危険という要件があるので、医療保護入院してもらいます。この場合、僕はできる限り3か月入院してもらうように努力します。せっかく入院しても体から酒が抜けてシラフになった時期に家庭に戻っても再飲酒にもどってしまい、入院した意味がないからです。ただ、この場合も入院継続の法的な根拠が必要です。家族がいくら望んでも、我々は法的に縛られているので、そこを逸脱しては医療ではなくなります。

Q3 家族がいない場合の治療の進め方を知りたい。

A3 ケースバイケースです。その人の持っている人的資源を最大限活かすことと、まだ持っていない資源があれば取り入れます。病院側もあらゆる職種が関わって対応する体制を作ります。治療者や援助者がその人にとっての救命胴衣的存在になることを一番心がけています。とにかく、治療的関係を切らないことを最大の課題にします。